

第一回大会記事

われわれの村研第一回大会は、共同テーマ「農地改革と村落構造」に関する研究発表を中心とし、約七〇名、会員半数の参加という盛大さで、十月十二日東北大学農学研究所二階講堂において開催された。

◎共同研究会

共同研究会は、有賀氏の大会閉会の辞の後たゞちに、午前、井森・午後、大山両氏司会のもとに研究発表に入った。(四、以下午後)

一、岩手県大野村晴山家を中心として

木下 彰(東北大)菅野(松本)作(東北大)

二、岩手県雄山調査

中村(岩手大)北(東北大)島田 隆(東北大)

三、農地改革後の自作農

森住(佐野)賢(岩手大)

四、群馬の一山村の村落構造と農地改革

小池(善吉)群馬大)

五、農地改革による社会移動について

——近畿水田村の一事例——

山本 登(大阪大)西田(香彦)和歌山大)

六、農地改革と村落構造

——未墾地買収の問題を中心として——

高倉(又二)宮崎大)

◎協 議 会

研究報告終了後、直ちに協議会に入り、有賀喜左衛門氏を議長に選出、次のような諸事項につき協議、決定を行った。

(一) 年報に関する件

(1) 第一輯は既定の如き内容による原稿執筆分担で、〆切は十二月末。

(2) 第二輯は、この大会における報告者(社会学会の方に発表を願ってもらった後藤和夫、神谷力而氏共同報告をも含む)に大会報告内容を主体として執筆を乞う。執筆規定細目は改めて年報委員会より連絡依頼する。

来年度宿題に関する件

農地改革の問題を今年一年でおえることは難しいから、来年度も、それに関連して課題をきめる。但し、より具体的な共同研究テーマの決定については席上、大いに討議されたが、結論を急ぐことを避けて、「研究通信」誌上で討議内容を紹介した上で賛否を問う。(別掲記事参照)

(三) 来年度大会開催地の件

東京において行うことに決定。大会当番校は東京において後にきめることとする。

る。

(四) 会計報告の件

別掲の如き会計報告と、今年度後期及び来年度への会計上の見越しの報告があり、承認。

(五) 会費値上げの件

前項報告にもとづき、会費値上げの必要に一致。今年度中は、入会費百円、通信経路費百円、来年度以降は入会費不取、会費年額三百円と決定。

(六) 運営機構に関する件

さきに、九州・関西方面より支部設置の要望があつたことを、事務本部委員の一人である議長より、その点いがりすべきか紹介、討議を求めたところ、別段、制度的に「支部」を作ることほしむと決定。しかし、地方ごとに研究本位のグループが出来ることがほむしむらしい、という結論であつた。

(註記)この際、「研究通信No.1」に既報の会則中、「D、会費及会務」の第4項に「各地方毎に支部を置く」という條項のあることを、思い出す者がなかつたので、その際、会則改正が明確に決議されなかつたが、前記の決定によって実質的に改正がなされたものと見て、今後その條項を削除する。

また、その際、東京が「本部」で、東京以外が「支部」であるかの如き印象を与えるおそれがあつたけれども、「本部」とは、「附則」第2項に明記

る。

る。

る。

る。

る。

る。

る。

る。

る。

る。

る。

る。

る。

る。

る。

されてあるように、単なる事務機関の
称であつて、東京地方には東京支部が
成立することが予想されたのである。

◎大会の最終プログラム 懇親会

夕食に入つてなお暫く協議会は続いたが
懇談会に移るや出席者各自より、齒に衣を
着せないフランクな発言が繰出、第一回大
会の運営についても賣重方批判が聞かれた。
——実はこの懇談会は更に仙台を去る列車
中にまで持ち続けられたが、幸い数氏より
の投書を得て、その内容の一端を此の号に
載せることが出来た。

以上のような、大会の成功は、全く開催
地、東北大学所風会賣重氏の全く行きとど
いた御尽力の下にはじめて見ることの出来
たものであつたことを痛切に想起して報告
を終えます。(中野卓記)